

2023年(令和5年)7月27日



この人

この仕事

パウルーム

黒木 秀子氏

今年4月、東京・青山(港区)に図書室つきのクリニック「パウルーム」が誕生した。主に小児医療を手がける同院で、大人と子どもとの心のケア、図書室の管理を担うのが黒木秀子氏だ。夫である院長と、二人三脚でクリニック運営にあたる。

待合室には、司書が選書した児童書約1000冊を蔵書している。ブレインテックの図書管理システム「情報館」を導入しており、OPAC

(利用者の検索システム)も公開。患者として来院した人は1人3冊まで、2週間借りることができる。

このように一

風変わったクリニックにしたのは、「今、家に本がないという家庭が増えているなかで、本が当たり前にある環境を地域のの人に提供したかったため」という。

公認心理師、臨床発達心理士の資格をもつ黒木氏は、読書セラピーの効能を、「物語を読むことで

経験がある。アニメーションとは、スペインのジャーナリスト、モンセラット・サルト氏が確立したグループ型の読書教育法。日本には1997年に、同氏の著書の翻訳刊を通じて紹介された。やがて、日曜学校の講師を務めていた黒木氏に、日本におけるア

図書室つきクリニック運営

アニメーションの普及にも尽力

別の生き方があると知り、今の自分を相対化することができる。古典的に読み継がれてきた名作を読破することは、自分に自信をもつことにも繋がります」と説く。

黒木氏がこう語る背景には、自身が読書教育「アニメーション」の提唱・実践者として活動してきた

アニメーションの「伝道師」として白羽の矢が立つ。サルト氏にも直接指導を受け、年間100回程度の研修会や講演会を行うようになった。解説書も複数上梓し、普及に尽力してきた。

「当初は、学校の先生や公共図書館の司書が主な対象者でしたが、

学校図書館の現場は予算がなく、荒涼たる状況でした。ここ約20年で、学校司書の配置が推進され、政府の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」にも「アニメーション」という文言が盛り込まれるなど、状況は改善されてきています」

現在もパウルームを拠点に、学校に対するアニメーション用の本の貸出や、勉強会を実施している。

黒木氏は1955年、東京で生まれ育つ。電車で片道1時間かかる小学校の登下校中に読書に耽溺し、「本に救われた」という強い想いをもつ。85年まで編集者として従事し、育児のために退職。その後、地域の子ども図書館運営に携わるなど、一貫して「本」を軸とした人生を送ってきた。「子どもの本には力があるのです」と目を輝かせる。

(杉)